

平成30年9月18日

洞爺湖町議会平成30年9月会議
教 育 長 行 政 報 告

番 号 件 名

- 1 台風 2 1 号及び北海道胆振東部地震に伴う学校施設等の被害状況と休校等対応について
- 2 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録推薦候補選定について
- 3 公立高等学校配置計画の決定について
- 4 各種事務事業の取組状況について

1 台風21号及び北海道胆振東部地震に伴う学校施設等の被害状況と休校等対応について

9月5日未明から早朝にかけて北海道に最も近付いた台風21号及び9月6日午前3時8分に発生した北海道胆振東部地震に伴う学校施設等の被害状況と休校等対応について、次のとおり報告します。

(1) 台風21号に係るもの

① 被害状況

学校敷地内等での倒木（3本）、校舎屋根の一部剥離及び洞爺地区学校プールの屋根損壊となっています。

② 休校等の対応

学校プールは休止しましたが、そのほかの公共施設・事業等の休校・休館、事業の休止等はなく、通常どおり実施しました。

(2) 北海道胆振東部地震に係るもの

① 被害状況

なし

② 休校等の対応

次のとおり

施設・事業名	9／6（木）	9／7（金）	9／8（土）	9／9（日）	9／10（月）
虻田小学校	休 校	休 校			通常どおり
洞爺湖温泉小学校					
とうや小学校					
虻田中学校					
洞爺中学校					
（虻田高校）	〃	〃			〃
虻田給食センター	休 止	休 止			通常どおり （一部メニュー変更あり）
洞爺給食センター					
本町保育所	休所。ただし、	休 所	通常どおり		通常どおり

入江保育所	保護者保育不可 に限り、午後 4 時まで受入れ。				
桜ヶ丘保育所					
洞爺保育所					
虻田ふれ合いセンター	休 館	休 館	通常どおり		→
あぶた母と子の館					
文化交流会館					
虻田体育館	休 館	休 館	通常どおり		→
虻田テニスコート					
洞爺湖町プール					
学校プール	台風 21 号被害 により閉鎖				→
入江・高砂貝塚館	休 館	休 館	通常どおり		→
虻田郷土資料館					
あぶた読書の家	休 館	休 館	通常どおり		→
みずうみ読書の家					
学校開放	中 止	中 止	通常どおり		→
放課後児童健全育 成事業(学童保育) (3カ所)	休所。ただし、 昼弁当用意でき る場合は午後 5 時まで受入れ。	休 止	通常どおり		→

※洞爺湖町プール、入江・高砂貝塚館及び虻田郷土資料館は、再開後、節電のため開館時間を一部変更。
(9/10から)

2 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録推薦候補選定について

7月19日、文化庁にて文化審議会世界文化遺産部会が開催され、今年度の国連教育科学文化機関（ユネスコ）に推薦する候補として、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が選定されました。

これまで、構成する関係自治体では、文化審議会から示された課題に対し連携して取り組むとともに、縄文遺跡群の価値を国内外に発信し、推薦に向けた準備を進めてきました。今回の決定は、これまでの着実な準備や取り組みが実を結んだものと考えています。

しかし、世界遺産登録に向けては、環境省が所管する世界自然遺産登録を目指す「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」との兼ね合いの他、審査機関である国際記念物遺跡会議（イコモス）の厳しい審査など課題は少なくありません。

現在整備中の高砂貝塚公園のほか、貝塚館改修などの周辺整備を進めながら、関係自治体などとの一層の連携の下、世界文化遺産登録を目指し、全力で取り組んでまいります。

3 公立高等学校配置計画の決定について

9月4日、北海道教育委員会は平成31年度から平成33年度に係る公立高等学校配置計画と、平成34年度から平成37年度までの見通しを公表しました。

胆振西学区に関しては、本年6月に公表された計画案からの変更はなく、平成33年度に登別青嶺高等学校と伊達緑丘高等学校で、それぞれ1学級減となっています。

学区の検討事項としては、平成34年度以降も中卒者の減少が見込まれることから、「4年間で3～4学級相当の調整が必要」、「欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、室蘭市内において定員調整の検討が必要」また、「地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要」とされ、さらに「伊達緑丘については、今後の市の検討結果を勘案し、平成33年度における伊達との再編を含め、変更することがある。」となっています。

なお、地域連携特例校である虻田高校については、第1学年の在籍者数が20人未満となりましたが、地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案し、平成33年度の再編整備は留保されました。

4 各種事務事業の取組状況について

前会議から本会議までの各種事務事業の取組状況について、次のとおり報告いたします。

(1) 洞爺湖町立学校運営協議会（虻田地区）の設置について

学校と保護者及び地域住民等とが信頼関係を深め、学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組むための連携体制を構築する機関となる学校運営協議会を虻田小学校、洞爺湖温泉小学校及び虻田中学校に設置し、次の方々を6月13日付けを

もって委員に任命いたしました。

3校合同による同日の第1回会議では、学校運営の説明と基本的な方針の承認を行った後、それぞれの運営協議会の会長及び副会長の互選に続き、平成30年度活動方針を協議し、「学校・家庭・地域それぞれの役割を果たしながら、手を取り合い、子どもたちに確かな学びと豊かな心を育てる活動の推進」を、3校の運営協議会の共通方針として活動していくことに決定しました。

(虻田小学校 学校運営協議会) ◎会長 ○副会長

氏 名	委員の区分
◎舘 岡 恵 一	保護者
住 吉 栄 治	地域住民
小 倉 克 彦	学校運営に資する活動を行う者
平 口 千 春	〃
久 郷 祥 男	対象学校の教職員
○増 山 和 世	学識経験者

(洞爺湖温泉小学校 学校運営協議会) ◎会長 ○副会長

氏 名	委員の区分
阿 部 博 之	保護者
○越 後 進 一	〃
津 谷 和 枝	〃
荒 町 美 紀	地域住民
青 山 晴 重	〃
高 山 功	学校運営に資する活動を行う者
◎後 藤 信 二	〃
大 路 直 輝	対象学校の教職員
山 本 幸 子	学識経験者

(虻田中学校 学校運営協議会) ◎会長 ○副会長

氏 名	委員の区分
佐 藤 正 記	保護者
石 川 諭	地域住民
田 仁 孝 志	学校運営に資する活動を行う者
依 田 信 之	〃
○横 山 仁	対象学校の教職員

◎増 山 顕 佑	学識経験者
----------	-------

(任期：平成30年6月13日～平成32年6月12日)

(2) 平成29年度洞爺湖町学校給食会計決算について

平成29年度 洞爺湖町学校給食（私）会計決算が、学校給食運営委員会において承認されたので報告します。

【虻田給食センター】

収入総額 24,364,346円

(うち給食費24,355,875円 収納率100%)

支出総額 24,359,834円

差引額 4,512円(次年度へ繰越)

【洞爺給食センター】

収入総額 6,299,252円

(うち給食費6,293,365円 収納率100%)

支出総額 6,295,005円

差引額 4,247円(次年度へ繰越)

(3) 洞爺湖町立学校運営協議会（洞爺地区）委員の補充について

洞爺湖町立学校運営協議会（洞爺地区）委員の異動等に伴い欠員が生じたため、4月1日付けをもって次の方々を任命しました。

(とうや小学校 学校運営協議会)

新委員氏名	旧委員氏名	委員の区分
中 井 英 和	廣 田 優 子	対象学校の教職員
鈴 木 淳	北 林 達 也	〃

(任期：平成30年4月1日～平成31年6月27日)

(4) 洞爺湖町学校給食運営委員会（虻田・洞爺）委員の委嘱について

任期満了に伴い、6月1日付けをもって次の方々を委嘱しました。

(虻田給食センター) ◎委員長 ○副委員長

氏 名	所 属	新再別
◎ 舘 岡 恵 一	虻田小学校PTA会長	再任
越 後 進 一	温泉小学校PTA会長	新任
角 田 隆 志	虻田中学校PTA会長	新任
○ 堀 田 稔	虻田小学校校長	新任

富 樫 生 志	洞 爺 湖 温 泉 小 学 校 校 長	新任
横 山 佳 彦	虻 田 中 学 校 校 長	再任
森 寿 浩	洞 爺 湖 町 副 町 長	再任

(洞爺給食センター)

氏 名	所 属	新再別
山 崎 貞 博	とうや小学校 P T A 会長	新任
◎ 佐々木 智 基	洞 爺 中 学 校 P T A 会 長	新任
○ 山 下 文 人	とうや小学校 校 長	再任
高 島 康 範	洞 爺 中 学 校 校 長	新任
森 寿 浩	洞 爺 湖 町 副 町 長	再任

(任期 平成30年6月1日～平成32年5月31日)

(5) 第10回縄文まつりの開催について

史跡入江・高砂貝塚への関心と理解をより一層深めてもらおうと「第10回縄文まつり」が7月16日、実行委員会の主催により入江貝塚公園を会場に開催されました。

虻田小学校太鼓少年団による勇壮な太鼓演奏が開幕を飾り、恒例の火起こし体験をはじめとした体験コーナーや槍投げ縄文選手権などが行われました。また、10周年を記念した札幌市在住の縄文太鼓奏者の茂呂剛伸さんらの演奏会も盛況で、約220名の方々の来場をいただきました。

開催にあたり、アプタフレナイの会、入江4区自治会、本町6区自治会、とうや湖レクリエーションクラブ、虻田郷土研究会、札幌国際大学、虻田高校など、多くの方々のご協力をいただきましたことに心より感謝を申し上げます。

縄文まつりは、北海道・北東北の縄文遺跡群を構成する入江・高砂貝塚のPRと共に世界遺産登録を目指す気運を高める効果も期するもので、今後とも、町民の皆さまに縄文文化に対する関心を更に高めていただけるよう、取り組んでまいります。